

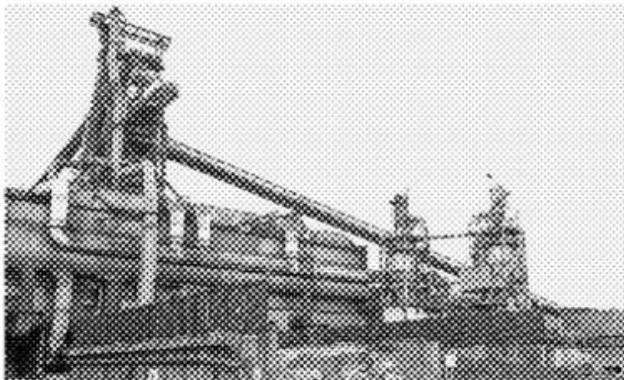
# 統合管理システム拡販

## JFEE 商事エレ プラント遠隔制御向け

JFEE商事エレクトロニクス（東京都千代田区、柳沢孝彰社長）は、工場設備の監視制御システム（SCADA）に、撮影した映像を管理するビデオマネジメントシステム（VMS）を独自技術で融合させたデータ統合管理システム「SDxV」の販売を始めた。高度な画像圧縮技術を採用した低帯域カメラなどを武器に、デジタルマーケティングで顧客を開拓する。製鉄所やプラント向けなどに売り込み、SDxV関連で2024年度に年3億円程度の売上高を目指す。

### 超低帯域カメラ採用

SDxVは横河電機VMSを独自技術で融合などのSCADA、カ合。高度な圧縮技術を用いたシエネテックの持つティ・エム・エフ



・アース（東京都渋谷区）のネットワークカメラやデータを1カ所に集

約して閲覧できるほか、長時間の録画、スマートフォンでの遠隔管理もできる。

超低帯域カメラは最大10分の1の圧縮率で動画像を円滑に伝送でき、鮮明で滑らかな映像が見られる。通常、動画はデータ量が大きく、広帯域でないと送信が難しくコストもかさみがちだ。低帯域カメラなら従来の通信規格「LTE」でも伝送可能で、クラウド対応でも通信遅延が少なくて済む。

JFEE商事エレは4月に設置した社長直轄の「デジタルマーケティング室」で潜在顧客を発掘、実販売につなげる。「顧客のスマートフォンファクトリー構築を支援したい」（柳沢社長）としている。